

# 札幌市自立支援協議会

## 子ども部会ニュース

第4号（2016年3月）  
発行 札幌市自立支援協議会子ども部会 事務局  
連絡先  
〒007-0836  
札幌市東区北36条東9丁目1-1  
[TEL:011-776-6856](tel:011-776-6856) FAX:011-776-6857  
E-mail:muginoko@muginoko.com

### 今年度の子ども部会のまとめ

子ども部会も4年目を迎えました。今年度当初は、社会的養護の意見交換会で国立武蔵野学院の相澤仁先生をお招きし、講演して頂きました。事例検討では、里親ファミリーホーム、子どもシェルター、一時保護所の方等に来て頂き、機関同士のネットワークを更に密にする機会となりました。教育と福祉、医療の連携会議では、放課後等デイサービスとの連携や理解の促進から、放課後等デイサービスの参観日を試行的に行いました。今年度の全体研修会では、相談支援部会と連携し今後、縦横連携の鍵となる障害児相談支援の質の向上のために、元北海道立向陽学院院長の梶原先生をお招きし、ソーシャルワークの観点からお話し頂きました。

次年度は、札幌市の困り感のある子どもたちが、乳幼児期から大人になるまで豊かに育っていくために、引き続き、各関係機関のネットワーク作りを密にしていき、その中で学齢期支援の質の向上の取り組み、教育・福祉・医療の連携、各地域部会の活性化を重点目標として、札幌市の各機関同士がチームで取り組んで行けるように、がんばっていきたいと思います。（部会長 北川聰子）

### 「教育福祉医療の連携に係る課題検討会からの報告」

今年度検討会では「機関連携を促す取り組み」と「インクルーシブと合理的配慮」をテーマとして4回開催されました。検討会中に出された連携を促す取り組みとして「放課後等デイサービスの参観日（施行）」を平成28年2月22日（月）～25日（金）を中心に市内3区（東区、厚別区、南区）で試行いたしました。4法人5事業所に受入れをお願いし、課題検討会で集約し調整のうえ、地域部会と協力しながら参観をサポート。この施行には60名が参加し、当日お願いしたアンケート等の結果を生かしながら次年度全市での実施を計画いたします。また、インクルーシブと合理的配慮については検討会内で各分野の現状等について話し合いました。（渡部委員）

### 「子ども部会全体研修会」

昨年12月8日（火）18:00～20:00 WEST19 講堂（札幌市児童発達支援研修会 共催）で、約390名の参加を得て開催されました。前半は、「子どもと家族への相談や支援のあり方について～子どもと家族へのソーシャルワークの基礎～」のテーマで、前向陽学院 院長 梶原 敦氏の講演。後半は、「子どもと家族への相談支援における現状と課題について～子どもと家族へのソーシャルワークの役割を考える～」のテーマで、相談や子育て支援、発達支援の関係者と保護者からの提案を基に、ソーシャルワークの役割について時間ぎりぎりまで意見交換を行いました。

講演では、私達が子どもの良き理解者となって、「最善の利益の実現のために」それぞれの役割の違いを理解しながら、繋がっていくこと（連携）の大切さが提案されました。後半は、成人期とは違った子どもの相談の役割と課題について話し合われ、相談では家族も含めて考えることの必要、また多くの視点からみて考えることの大切さ確認されました。

今回はソーシャルワークについての論議があるため、今までの研修会とは異なり、各年代ごとに関わる機関の関係者、特に児童発達支援や相談支援、就労の方々の参加が多かったです。（金澤事務局長）



## 「社会的養護の必要な子どもを受け入れている里親・入所施設等関係職員の意見交換会」

社会的養護の必要な子どもを受け入れている関係職員等の意見交換会について

今年度も意見交換会を3回実施しました。1回目は、6月に国立武蔵野学院院長 相澤 仁氏を講師に「子どもの行動上の問題の理解と対応」というテーマで研修会を実施しました。21事業所55名の参加で、子どもにとって大切なことは、「普通の事が出来た時は褒めること」「言葉より思いやりのある対応」「日常生活上の創意工夫」等が話されていました。2回目は、12月に21事業所34名が集まり、札幌あいりん荘、札幌育児園、ノビロ学園、ファミリーホームはせがわの各事業所の事例や事業所の報告を行いました。家族対応や難しい児童の対応に各事業所苦慮している様子が伺えました。3回目は、3月に19事業所35名が集まり北海道立向陽学院、レラピリカ、札幌市児相一時保護所からの報告がありました。普段、なかなか聞くことが出来ない事業所からの報告で、新たに情報共有することが出来ました。市内30程ある社会的養護の関係事業所が集まり、3年が経ちました。一貫して「家族支援」の重要性とその困難さが話されています。各事業所の顔ぶれがわかり、必要により連携がとれる関係になりつつあると感じています。継続していくことで、更に子どもとその家族への支援の輪が広がればと思います。（宮脇委員）

## 「地域部会の紹介（南区）」

地域の教育ネットワークと共に学習会を開催しました

平成26年7月7日(火)に南区民センターを会場として「支援機関の連携」をテーマとした学習会を実施しました。この取り組みは昨年度より引き続き「南・豊平・中央区特別支援教育地域ネットワーク」との共催として開催され、教育・福祉医療関係者や地域の民生委員等、子どもの発達支援にかかわる様々な職種の53名が参加。

全体会では、社会福祉法人楡の会放課後等デイサービスあーち

宮崎博一氏と札幌市立澄川南小学校教諭河原和孝氏から日々の活動内容についての説明のあと、グループに分かれ「サポートファイルさっぽろ」や「個別の教育支援教育」の様式を見ながら連携について意見交換を行いながら交流を深めました。（渡部部会長）



## 「地域部会の紹介（北区）」

北区こども部会は、平成25年4月に発足し「北区に特化した子どもに関わる関係者のネットワークづくり」を目的に活動しています。子どもに関わる関係者のニーズや地域が抱える課題の抽出・整理。そして、子どもに関わる関係者の顔の見える関係づくりをする為、学習会を企画しています。毎年「ライフステージに応じた支援」というテーマで乳幼児期、学齢期、社会へとそれぞれの時期に必要な支援や取り組みについて現場に携わっている方々にご講演頂いています。講演の後には、毎回グループワークを行い様々な職種の方々と意見交換を図っています。学習会を重なるごとに交流の場が広がり、少しずつ子どもに関わる関係者のネットワークづくりとして機能出来るようになってきたのではないかと思います。今、目の前にいる子ども達がどのような道を歩んでゆくのか。目前だけを見るのではなく子ども達の道行く先を見ながら支援を繋いでいく事が出来れば良いのではないかと思います。北区こども部会として今後も、支援を繋いでいけるような活動をして参りたいと思います。（川畠部会長）

